

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立箕面高等学校
校長名	石田 利生

開催日時	令和3年3月2日(火) 14:00~16:20
開催場所	大阪府立箕面高等学校 校長室
出席者(委員)	湯峯会長、小林副会長、星川委員、黒田委員、宮下委員
出席者(学校)	石田校長、田中教頭、藤原事務長、牧野首席、森田首席、森下進路指導主事
傍聴者	なし
協議資料	資料1 令和2年度 学校教育自己診断結果について 資料2 令和2年度 後期授業アンケート集計結果まとめ 資料3 令和3年度 選定教科書一覧表 資料4 令和2年度 学校経営計画に係る学校評価(案) 資料5 令和3年度 学校経営計画(案) 資料6 箕高のディプロマポリシー・グローバル科の方向性について
備考	

議題等(次第順)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者からの意見書の提出状況 2. 令和2年度 学校教育自己診断について(資料1) 3. 令和2年度 後期授業アンケート結果について(資料2) 4. 令和3年度 教科書採択について(資料3) 5. 令和2年度 学校経営計画に係る学校評価(案)について(資料4) 6. 令和3年度 学校経営計画(案)について(資料5) 7. 箕高のディプロマポリシー・グローバル科の方向性について(資料6) 8. その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)
<p>(1) 1. 保護者からの意見書の提出状況</p> <p>○ 2月11日現在、保護者からの意見書の提出はありません。</p> <p>(2) 令和2年度 学校教育自己診断について(資料1)</p> <p>(全体としてのまとめ)</p> <p>昨年同様、生徒・保護者・教職員すべてのアンケート項目 30 項目とし、回答しやすいようにしている。すべての項目(90)中、昨年度と比較して、生徒・保護者・教職員の肯定的評価が up した項目数と down した項目数は次のとおりである。生徒1年生 up28/down2、生徒2年生 up29/down1、生徒3年生 up21/down9、保護者1年生 up18/down12、保護者2年生 up29/down1、保護者3年生 up14/down16、教職員 up18/down12 となり、今年度の自己診断において、学校に対する「評価は概して昨年より向上している」と考えたい。</p> <p>(生徒による評価)</p> <p>1年生における学習指導に関しては、「授業はわかりやすく楽しい」(52.4%→80.1%)up したとはいえ、「箕面高校へ行くのが楽しい」(88.6%→61.4%)と評価が低い。十分な感染症対策はもちろん、生徒の実態把握や支援を続けることが求められる。</p> <p>2年生では、「授業はわかりやすく楽しい」(52.4%→65.3%)と up したが、「英語教育が充実している」(82.6%→71.4%)に down した。グローバル科、普通科にかかわらず、英語教育のさらなる充実と見直し、</p>

授業の改善を働きかけていきたい。

3年生においても、「授業はわかりやすく楽しい」(49.2%→78.2%)と up したが、「箕面高校を信頼している」(62.3%→47.1%)と down した。コロナ禍、十分な進路情報の提供や生徒の抱える受験への不安を払拭することに課題があったためと思われる。

(保護者による評価)

1年生保護者において、「先生方は生徒を理解している」78.2%→89.2%)、「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(58.1%→69.3%)と 10%以上 up したが、「箕面高校の学校行事に参加したことがある」(83.2%→30.3%)と down した。今般の状況を受け、致し方ない面もあるが、学校情報の提供方法は検討の余地がある。

2年生保護者では、「進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」(78.2%→85.7%)20%以上 up した。「箕面高校の学校行事に参加したことがある」(87.3%→80.5%)を除き、全ての項目で、肯定値が上昇した。

3年生では、「箕面高校のホームページを見ている」(42.6%→54.8%)と up したが、「英語教育が充実している」(81.4%→74.6%)は down した。

(教職員による評価)

肯定値は 18 と全般的に良い結果であり、「各学年や各分掌の連携」(61.3%→79.4%)肯定的評価が 18%以上 up した。加えて「校内研修の充実」(77.4%→91.2%)も 13%以上 up した。高大連携をはかりながら、充実した研修を継続したい。

その一方で、「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制」(71.9%→47.1%)と 24.8%down した。より一層の教員力向上に努めてまいりたい。

(3) 令和2年度 後期授業アンケート結果について(資料2)

○ 昨年度の後期分の結果と比較すると、すべての質問項目で数値の改善がみられる。先生方の取組みによる成果が出ていると考えられる。

○ 第1問の「授業内容について、家庭学習ができている。(実技系)授業中は集中して先生の指示やアドバイスを聞いている。」については、前期は3.0と改善していたものの、再び3.0をわずかであるが下回る結果となっている。誤差の範囲かもしれないが、この項目についてはなかなか改善の方向に向かない。家庭学習を促すような工夫を取り入れた授業づくりをめざす必要がある。

(4) 令和3年度 教科書採択について(資料3)

添付した資料のとおり採択いたしました。(報告のみ)

(5) 令和2年度 学校経営計画に係る学校評価(案)について(資料4)

○ 全会一致で承認された。

自己評価 26 項目中、計画以上(◎)8 項目、計画通り(○)10 項目、目標に達していない(△)5 項目、コロナ禍により評価なし 2 項目、3 月末に確定 1 項目

※ コロナ禍で実現できなかった項目もあるが、概ね、経営計画通り実現できた。

※ 目標に達していない(△)5 項目、学校教育自己診断で課題となった5項目(うち 1 項目は△の 1 項目と同じ)、合わせて9項目を令和 3 年度の課題と設定し学校経営計画で改善策を打った。

○ 上記、課題は、(A~Eは学校教育自己診断の課題、F~Iは学校評価(案)△の項目)

A 教育相談・支援体制の充実 B 英語教育の充実 C 進路情報の充実 D 学校情報の提供方法

E 教員力の向上 F 生徒の家庭学習時間 G 学習指導 保護者アンケートの肯定的評価の向上

H 自己診断 全般に関する質問の肯定感の向上 I 自己診断 教職員の学校組織に関する肯定感の向上

○ 意見等

・自己診断の結果は今年の状況から例年と同列には論じられないと思います。数値がダウンしたからよくないのではなく、いまの環境がいつまで続くのか分からない中、どんな取り組みができるのか、これまでの授

業の殻を破った新しい取り組みは何か？といった検討が必要だと思います。特に英語はインターネットを活用して学校の枠を越えた授業ができると思います。

・コロナ感染対策を行いながらの教育活動において、工夫を凝らしすべての行事を中止することなく実施できたことは、子どもたちにとっても学校生活の活力になっているはずで、引き続き、工夫をされながらの教育活動の遂行を期待致します。教育相談機会や海外研修など、コロナの影響があった活動は、次年度のさらなる対策・工夫を期待します。

(6) 令和3年度 学校経営計画(案)について(資料5)

1 新グローバル科に求められている評価指標を落とし込んだ

2 箕面高校が普通科・国際教養科時代より練り上げ創り上げてきた取組みを強み(継承していくべき財産)とし、新たな時代の要請に応え、地域からの期待・信頼に応える箕面高校を創る、そのためのディプロマポリシーを全体共有し、グローバル科・普通科併設校としての方向性を示していくことに努めた

3 令和3年度の課題9項目(A~I)の改善策を練った

○ 全会一致で承認された。

○ 提案・意見等

1. 「高い志で自らの力を切り拓く力」に関して、国公立大学・関東圏の大学・海外大学等、生徒たちが高い志を持って自己実現・進路実現できる選択肢を増やすよう引き続き努力をしてほしいと思います。例えば、理科系学部で研究室の学生数が少なく研究環境の整っている地方国公立大学、特色のある学部・学科をもっている九州大学や東北大学、国際関係機関への就職の多い上智大学等にも選択肢を拡げられるのではないのでしょうか。Job型の企業が増えていくなか、学生時代に今でしかできない逞しさが求められています。
2. 箕面高校の「海外大学に一番近い府立高校」としての先進的な取組みは大いに評価できます。広い視野で自分たちの未来を考える機会が、進路の選択肢にあることは箕面高校の強みです。箕面高校から多くの卒業生が海外大学に進学し、就職期を迎えている学生もいると思いますので、彼ら彼女らの就職の動向を把握し、広く紹介してほしいと思います。生徒・保護者は、そこがどうなるのか心配しているはずで
3. 箕面高校のよさを伸ばし、そこに新たな取り組みを加えていこうとする意欲が感じられます。共通テストの英語が話題になっていますが、箕面高校の生徒にはそれに留まらずもっとアカデミックな議論もできる力が求められると思います。それには日本語での読解力と思考力・判断力・表現力が基盤となります。それらの獲得には、チームワークのあるカリキュラム・マネジメントが求められます。新たに設置される「学習指導室」がその推進力になると期待します。
4. 1人1台端末の導入と家庭学習に関して、反転学習に類する形で、オンライン学習を活用して、家庭での時間を有効に使う取組みが進むことを期待しています。
5. 海外に目を向ければ向けるほど、生まれ育った文化による意識されない視点のバイアスを自覚しなければなりません。国際理解にあわせて自国の文化理解を求めるのは、本来はそのようなことのためです。決して自国の文化を他国に紹介するためだけではありません。日本列島に生まれ育った者には、他国の風が入って来にくいだけに特に自覚する必要があります。箕面高校には世界に視野を向けた教育を発展させる生徒の育みの視点も持ってほしいと思います。
6. 「国公立大学の進学実績を80名以上」に関して、そのためには「国公立大学の志望者を240名(3倍)にすること」がひとつの目安となると考えます。志望校合格のためには、「学力伸長」に加えて、「志望醸成」も重要なポイントとなります。海外大学進学への進学指導を含め、これまでも「志望醸成」の取り組みを実践されてきたと思いますので、引き続き、これまでの取り組みを進化させる形で、新たな取り組みにも挑戦してほしいと思います。

(7) 箕高のディプロマポリシー・グローバル科の方向性について(資料6)

○ 提案・意見等

1. 箕面高校で、卒業時までには生徒に身に付けるべき資質・能力が明確にされ、しかも教職員で全体共有が図られている点が素晴らしいと思います。
2. 新設される学習指導室を中心に、ビジョンの全体共有を一つひとつ丁寧に時間をかけて行い、それを基に組織的に教育課程の編成、授業改善、観点別評価のより良い改善に繋げて行って欲しいと思います。さらに、グローバル科・普通科の学びの特色についても議論・共有を深め、中学生・その保護者にも理解を進めていってもらえればと期待します。

(8)その他

次回の会議日程	
日時	
会場	